



文章の妙
 初学のうらほ
 在能くぬ
 才一あり
 万字の筆
 勢小うり安

自遣性来
ト げん しょう らい

陽春之慶賀
やうしゆのけいが

貴方福幸甚
きほうふくしん

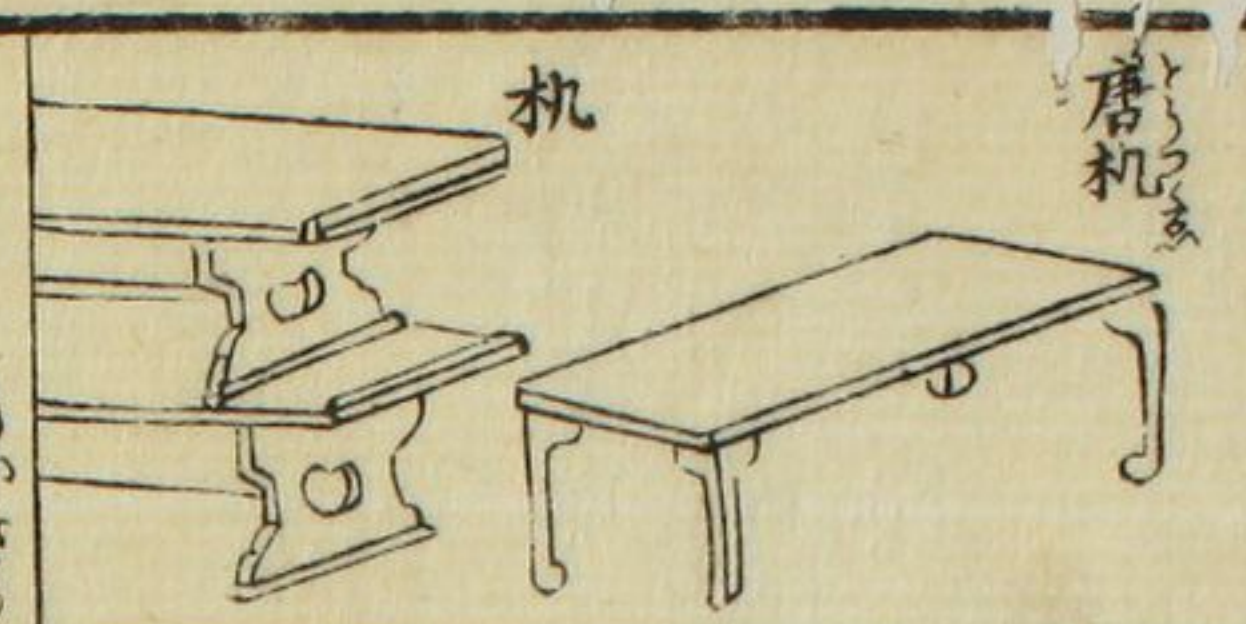
他無栄宝
たむえいほう

東菴准
とうあんじゆん

先以年始
まゝいねんしゆ

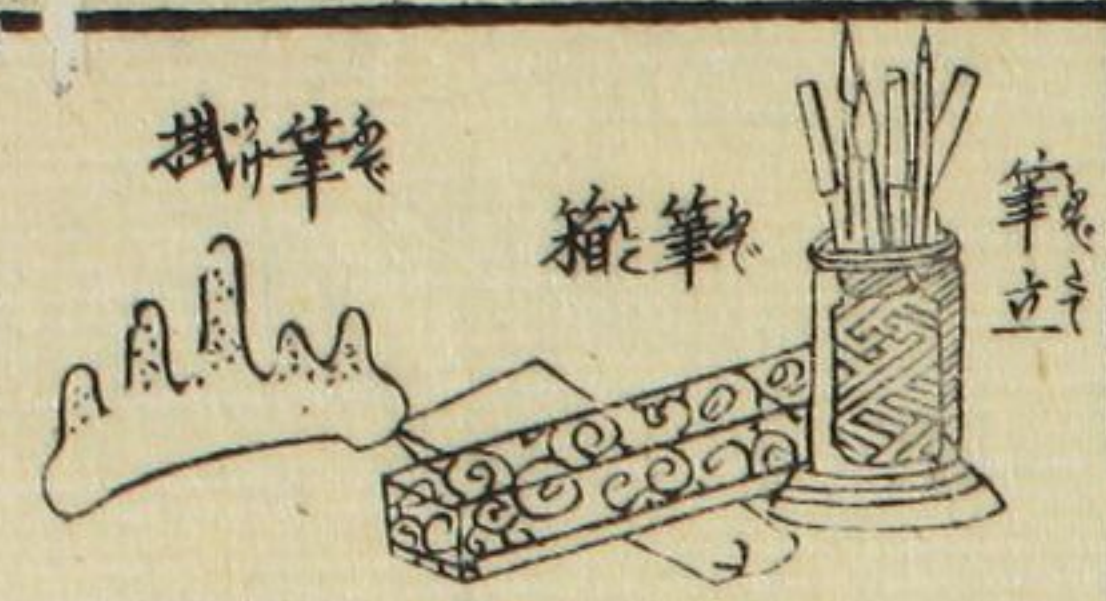


工五生



あてまよ上校更
あむえええ まよ
お小三枚の境
まのりて能也
とあるのま
人のあま
まこく小かき

河内は方々國に城主
 歴二款と少税を対諸侯
 賦近と西と浩元蕃領物
 諸侯人法をも健士所流
 載之且又大中約言冬
 將少和侍洋心平大位
 三流中



あは文字の
 教を初るの
 故不能
 りず抑いろは
 法大の
 筆立

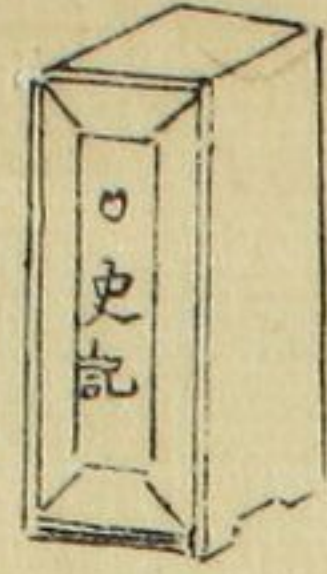
追者美肢願究不傷
 承建主も宿位法深
 或廣善律願三自法
 息子も位宿長諸家
 人及系郡大位系良
 道書銀在生筆進群

工五生末

盤丈

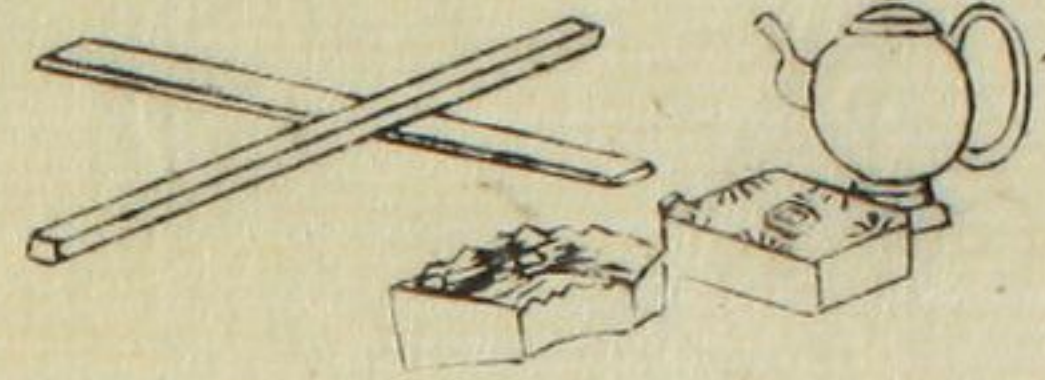


箱抄書



左わがたれ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ
うのねなるむ

尺歴



水入

按まる小のろは
の作老の振の
半の復命備
正ありいろはに
ほごちろねる

工五主大

僧侶教十汗聲青自迎運遠
塘水不美自直公日定承寺
挑灯輝檜多門燒香舞公映
道新秘於筆端山門盤圍也
市酒亭更立化法住持言浴
取鉢冲盃盞路杖器有る
長務別装四座儀儀出殊後
像名雛子二番百消老相集此
言砂見も打小洋圓と住法度

江戸御用

藤塚山進物奉持も禮上
道同員念後為少法和同製
廣同宗沖祝儀大小定念為
長務別装四座儀儀出殊後
像名雛子二番百消老相集此
言砂見も打小洋圓と住法度

梅屋



みいふじゆせ
す系の字ハ
傳教大師を
く加へありひ
長方の折心也
ひは十八字の内

文箱



あまのそとく
うはあど教
おまをいんい
ひさのそとく
花のそとく
月がそとく

江戸御本

境諸も諸山出家社人山は後
百念満一宮中奉拜
名類七日者七種
土日者沖具是沙夜夜連秋
沙具心念依沖家創也土日
恒例諸沙禮七日東殿山

沖泰 庚申日同所沖泰堂
女僧増寺沖佛海也凡具
別日及沙狂集東法園長相集
供奉を常立三列歩を出さ哉
樹心衣冠清厨を太刀奉り又
或樹を大紋風折為僧子也布

江戸生大

この文のつら

わがよたまは

あんなとわ世の何

ぶるが注る

いづれと止めて

んあつらわの奥



手本

一門の文のつら
わがよたまは
あんなとわ世の何
ぶるが注る
いづれと止めて
んあつらわの奥
江戸徳利
不煩濁俣首神先祖と海宗

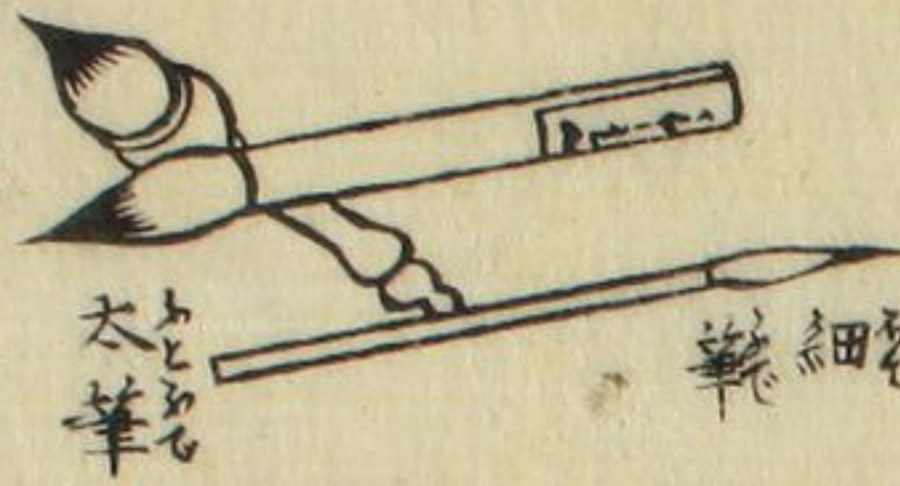
ひげのえん

あはれぬの候

あをこえりあり

あさな夏み

あふせぎ



字筆

あふせぎ
あさな夏み
あをこえりあり
あはれぬの候
ひげのえん
江戸徳利
不煩濁俣首神先祖と海宗

江戸生来

のたぬの酒の

えらるありきん

まふあまの酒

せいのりふを

うたまき ねるべ

きりふあり



三行傳

敬信神と御信神世々氏と
御改社と御代々世々氏と
君奉世世御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と

不易の法は代々傳ふて世々氏と
産を御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と
御改社と御代々世々氏と

工口生來

子と茶凡美茶凡河我凡能凡
為和彩回子凡淡茶難き者衆川
海若馬刀然若吐美子離井勝仙
精補忠勝軍州楊術林擒丹波栗
物余山椒誘為と美意京に博交練
酒白平菱菊池酒若相良和希雅

油藻十六海若日先若若富美
松幸法款川若海草入野辨若
櫻樹竹若也地海若之厨討地伊國
忍冬酒母の洋類丹法辨能者難
若成浮若海丹法平松若良命胞
胸秘少直湯車酒嵐若若歸字和

工日生来

鷗鷺沙渚向鮎鮎為鮎鮎統鮎
 幸奧州鮎鮎子鮎鮎一鮎清海
 月同渚葉似增渚鮎鮎為鮎鮎鮎
 精渚鮎鮎子鮎鮎同渚鮎鮎葉鮎鮎
 鷗鷺水渚鮎鮎石鮎鮎南鮎鮎著鮎鮎
 月雉子雁為鮎鮎梅首鮎鮎水鮎鮎川

鳥湖老葉葉地生一鮎鮎鮎近
 手鷗鷺水渚鮎鮎石鮎鮎南鮎鮎著鮎鮎
 刺鮎鮎百為鮎鮎骨白鮎鮎目鮎鮎鮎鮎
 鮎鮎身子鮎鮎子鮎鮎子鮎鮎冠者白鮎鮎
 七鷗鷺鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎
 鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎

保来老宿如寂庵粉後須茶治
 移为山私葺集余在頭然州系
 非希松尾和菓子小和松常道如古電
 精濱名物直長徳寺妙麻池酒會
 洋雜燭炭針靴靴後様茶由出瑞
 風煖茶を爰言子山酒梅行口先流

細炭茶室燗茶碗仔万室燗徳茶
 燒德利体集燒水越洋蘇屋燒茶茶箱
 野燒洋唐洋燒之香煖琉球茶煮布
 同泡盛酒古筆新茶子信紙空園
 本物之書跡陸奥奥州松茶
 胡餅之天齋餅也餅茶餅茶餅刺

羽衣抄 仙基南 羽衣 府 仙州 仙鏡
 摩之 駿馬 武具 者 羅 甲 者 乃 長 者
 管 藏 炮 委 系 未 後 叙 祖 後 後 美 國
 弘 命 休 之 者 乃 後 編 細 本 納 編 子
 儒 純 純 子 編 子 鳳 清 納 金 禱 天
 猶 紙 毛 檀 羅 仙 羅 脊 板 釋 純

獲 抄 未 檀 松 梓 子 沈 名 仙 羅 桂
 丁 幸 天 楓 子 大 腹 皮 子 記 系 黃 連 子
 香 皮 山 掃 未 河 仙 羅 羅 麟 田 面 香
 其 草 子 竹 子 夫 夫 以 冬 白 菖 寇 青
 試 帝 的 桂 松 本 和 系 未 補 少 佛 藝 胡
 椒 苦 瓜 茶 香 居 少 椰 子 油 後 名 和

牛黄犀角南星茶院美生角为本
 角菜脑蛛漆液依毒香子果为核
 多合雷火入毒菜友蘭竹根亦
 慈白慈毛慈家牙水得露瑞彦
 南瑞药胎腐毒毒毒花樹油瑞
 碑碑鴈晒州湖琥珀海明蟹瑞

早麻皮少人海皮乌蛇皮山
 人海山珍境太麻刺香指乳香赤
 色黄以香少种香友香海瑞生
 乌瑞雄香白瑞香白以乌瑞瑞
 香呼香得香友乌东捕塞加金
 瑞香巢巢少糖药胆肉二京茶

蒲島酒外海多深根管
 内除室席上作中庭探火
 度之所接方於余即地延郭对系
 方考本八四地本梳町法地洲女
 本之谷多最清の僕在室十町を酒
 洋本校在也而を武市谷中

野牛山下向山所高田雜田谷子
 野本村野里南者武市赤坂者山
 宿本村樓田武市家不為久保麻布
 滋谷向根月尾池上武市神奈川の七
 軍本海道之順流是也北老法草
 武市本陽田川子住板橋城谷本

柳並の堂に於て是れ南の宮に南の十
 余里大小名を家と思ふ當此に全
 根を染地と辨むる何れも染
 山掛眺を僅日夜佳遊と要以外
 可と神社仏閣道と度家か小を継行
 現運賃万を難せ異地業を以て

藏軒名を身持る有るは丹後道家
 出で家名は被弄は行に起る高巻院
 之祥々想像は也此處東空に地
 下最深の基城故不存者
 自地行一里為老南北未だ石好建
 業を美物伴魂云々然る

貴人若得逢此 國之乃極下
降軍為一有有出川水法於果味
為考更安彼一安更安安余
被 仰止 極止 穿者 數月
一 屈依 四運 時曆 年中 柳之 障未
城 長 酒 為 毒 成 業 亦 病 除 患

長海軍民俱染何事如亦法為北
青有南河亦之云海元來大河皆從
能昔者病深事變名亦為主水乞
如笑公亦能隨渡之風波之矣居雅
意或或得流漫之凍之大海或蓬卷
張彼覆私底之得成果者不知哉

手方人共儀及 多徳之書如也
 樹稿之身乃能運之通路之有
 最令津多智化之良に股肢身
 之取人氣依行是之受年高得亦儀
 万派年津是之今成法然之儀
 書稿之身乃老美花向之志徳也故

心相为国稿作本之徳人老美
 女喜悦行津稿以之計法彼
 稿其津波刻安房上徳流波旨光
 深間樹首上之根眼前以運
 少園夜作速有津下回皇令曆
 皆徳也將又為之良角乃兼此

獲坂を以て敵山を以て南東敵
 山を以て是則
 東照宮を以て御法府也蓋御所
 也
 御倉を以て玄寶寺平洋中を以て草
 別守を以て城を以て鬼門を以て麻葉降伏之
 靈陽天下中を以て勅の初を以て御志

本邦を以て精魂也及て所方本天社傳坊
 集公夢法本建枝費者以て神本
 本邦を以て深淵也安を以て神也天來酒法
 人神神御律法本神教神律法
 皇親風者本波煩添神神神神
 皇親風者本波煩添神神神神
 皇親風者本波煩添神神神神

或車上夜席材多煖酒飲茶燒物
 業齊自方收其多花書字重女
 籍在律校都物備商秋味德院
 豎珍備教教生著多不獨今出
 所成祇以先傳多夕人元質
 自造師來統

高田屋文三郎板
 多吟町丁目

大正元年正月十日

明治二十九年正月十日

川幸村

丸尾大之丞

八